



## ベトナムのシクロについて

北陸銀行 国際部  
ベトコムバンクトレイニー  
西尾 拓

### 1. はじめに

「シクロ」という乗り物をご存知でしょうか。前輪2輪、後輪1輪の、前方に1~2人乗りの座席が付いている3輪自転車タクシーです。最盛期には庶民の移動手段として重宝されたシクロですが、現在は観光用として利用され、稼働台数は年々減少の一途を辿っています。今回、シクロの歴史について、辿りたいと思います。

### 2. シクロについて

#### (1) シクロの歴史

シクロは、1930年代にフランス人が発明したとされています。ベトナムを含む東南アジア諸国には、フランス植民地時代に到来し、移動手段として親しまれました。統計資料によれば、1939年にはサイゴン(現在のホーチミン市)に40台のシクロが存在し、翌年1940年には、200台に急増したとのこと。その後、ベトナム戦争により社会インフラが壊滅状態となったベトナムでは、移動手段としてシクロが全国的に普及しました。最盛期には、数千台規模でシクロが稼働していましたが、2000年代後半は、500台以下まで稼働台数が減少しました。



【街中のシクロ：本人撮影】

## (2) 衰退の要因

シクロの衰退の最たる要因は、インフラ環境の発達によるものと考えられます。タクシーやバイクといった自動駆動車と比較し、人力が主流のシクロは、移動速度の面で見劣りします。急速なモータリゼーションの加速の中で、ベトナムでは、シクロによる交通渋滞問題が取り沙汰されるようになりました。こうした問題を受け、ホーチミン市では2008年に、市内を走る事が出来るシクロの台数を規制する法案が可決されました。ハノイ市においても、シクロで走行できる地域が規制される様になり、移動手段として親しまれてきたシクロは衰退し、観光用として一部地域でしか見られない事となりました。

## (3) シクロの現状

現在、ハノイ市においてはホアンキエム湖周辺、ホーチミン市内においてはオペラハウス等の主要観光地でシクロを利用することが可能です。一方でシクロの新規製造や、新たに事業参入する人物は殆どいないことから、年々事業規模が縮小しています。シクロに乗り、ゆったりとした時間を過ごしながら観光をする、そうした体験が出来るのは、今だけなのかもしれません。

## 3. おわりに

ベトナムにお越しの際には、貴重なシクロを是非利用してみたいはいかがでしょうか。ただし、シクロ運転手からのぼったくり被害も多く聞かれる為、入念な値段交渉等、ご利用の際はご注意ください。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。  
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp